

5 地域の課題

- 5-1 交通(モビリティ)の課題
- 5-2 まちの賑わいの課題
- 5-3 情報の課題
- 5-4 その他の課題

5-1 交通(モビリティ)の課題

現況・ニーズ

特徴

- 南大沢駅前からバス停まで道路面に対して高低差が存在している。
- 駅周辺は丘陵地となっており、高齢者や身障者等にとって負担が大きい。
- 商業、病院等は駅周辺に集中し、大学、公園等は3km圏内に複数立地。
- 駅西側や南側では、築年数が30年以上経過している住宅団地もみられる。
- 駅南側の住宅地では特に高齢化が高い割合である。

交通手段

- 電動シェアサイクル等多様な移動手段へのニーズがある。
- 駅周辺は交通手段の8割が徒歩となっている。
- バス・タクシー運転手は年々高齢化が進んでおり、担い手の確保が課題となっている。
- 高齢者からは車がないと買い物・通院に不便との声がある。
- 今後高齢化による免許返納が進んだ場合、買物や通院に苦勞する住民が増加する恐れがある。
- 移動時間短縮を目的とした横移動の提供を望んでいる。

移動プロセス

- 駅前交通ターミナルについて、バスの頻度は高齢化が進む駅南西部エリアが、北部エリアに比べ相対的に少なくなっている。
- リアルタイムのバス案内情報板等は未設置であり、円滑な乗り換えがややしづらい。
- 居住者や来街者は電車、自転車、徒歩、バスの移動と、乗降場所、駐車場の混雑に不便を感じている。

将来動向

将来動向

- 先端技術の検証・活用により、持続可能なスマートシティを実現を想定している。
- 自動運転車を導入したフィーダー交通等、多様な交通モードによる移動円滑化を想定している。
- 地域間の移動情報の充実を想定している。
- 歩きやすさと賑わいの創出に向けた交通環境の改善を想定している。
- 新たな移動アクセスの構築を想定している。

モビリティの課題

既存の交通手段と情報提供方法だけでは、
場所・人に合わせた移動手段を最適に選択できていない

ラストワンマイルの移動

- ラストワンマイル解消に向けた移動環境の整備が進んでいない。
- 住宅団地から駅・バス停でのアクセス交通の確保が困難である。
- 丘陵地の高低移動の負担が大きい。

エコかつ多様な移動ニーズ

- 駅周辺において、利用者に応じた個別最適な移動がない。
- 横移動が整備されておらず効率的な移動ができない。
- 環境に配慮した移動手段が少ない。

移動サービスの利便性向上

- 鉄道とバス・タクシー・自転車等の円滑な乗換のためには、より高度かつ利用しやすい移動サービスや情報発信手段が必要である。

既存交通の維持

- 担い手の高齢化に伴いサービス提供機会が減少する恐れがある。

5-2 まちの賑わいの課題

現況・ニーズ

経済動向	<ul style="list-style-type: none"> ■ 駅前に多数の店舗が立地し、コンパクトな空間に駅前商業集積を形成し、広域からも集客がある。 ■ 駅周辺の2 km圏内にも商業店舗が複数立地し、特に南部の幹線道路北側には大型の商業施設がみられる。 ■ 特定の小売店へ売上が集中し、小規模店が閉店している傾向がある。 ■ 大型店舗等はコロナ禍の中、顧客の戻りが遅い。
人口・人流	<ul style="list-style-type: none"> ■ 南大沢駅周辺エリアでは人口が減少するとともに高齢化が進展している。
購入プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 居住者・来街者共にキャッシュレス決済の利用を求める声が多い。 ■ 居住者・来街者共に店舗情報の提供を求める声がある。 ■ 駐車場の混雑状況緩和やサービスの高度化を求める声がある。
物流	<ul style="list-style-type: none"> ■ EC利用増で宅配需要拡大でラストワンマイルの配送負荷が高まっている。 ■ 共同配送を実現したい。
交流	<ul style="list-style-type: none"> ■ 駅周辺にはレクリエーション機能をもつ公園・緑地が分布している。 ■ 地域住民からコミュニティ形成支援の要望がある。 ■ コロナ禍の外出自粛等による高齢者の健康維持のための外出・交流のニーズがある。 ■ コロナ禍のオンライン化による接点減少（学生間、地域と大学）。

将来動向

将来動向	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市場（マルシェ）や子育て支援施設、ビジネスマンや留学生の交流、インキュベーション、効率的な物流施設・荷捌き施設の構築を想定している。 ■ 大規模災害発生時に、適切な避難行動や避難場所へのルート案内ができるサービスの導入を検討している。 ■ 商業施設や都立大学等の機能を強化するとともに機能の複合化や地域コミュニティの活性化・エリアマネジメント組織と連携した交流を推進している。
------	--

まちの賑わいの課題

満足できる買い物体験を提供できていないことがあり回遊が生まれていない、地域住民に交流の場を十分提供できていないことから賑わいが生まれていない

南大沢への集客	<ul style="list-style-type: none"> • 街案内等情報発信が不足しているためアクセスが不良である。 • 近隣からの来訪者が多く、遠方からの来訪者を取り込めていない。 • コロナ禍に伴う消費者志向の変化を十分に把握できていない。
南大沢駅前地区を中心とした購買・物流の効率化	<ul style="list-style-type: none"> • 個人のニーズに応じた情報や、快適な買物サービスを提供できていない。 • 駅前及び周辺地区にて非効率的な荷物搬送・物流環境が散見される。
近隣エリアへの回遊	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍の外出自粛により回遊性・滞留性が停滞し、まちの賑わいが創出されにくい。 • 地域の公園や空き店舗が有効活用できていない。
コミュニティ形成	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍のオンライン化等により、多様な交流や連携を促進する機会や場が創出されていない。
駐車場サービス高度化	<ul style="list-style-type: none"> • 駐車場の使い勝手の向上（満空情報や場所の案内等）やサービスの高度化（周辺駐車場を利用した場合のインセンティブ付与等）の余地がある。

5-3 情報の課題

現況・ニーズ

インターフェース

- 八王子市は市の業務に関する様々なお問い合わせに対し、AI（人工知能）が対話形式で回答する「AIチャットロボットサービス」を提供している。
- 八王子市では、ウェルネス分野において、1つのプラットフォームを通じて地域ポイントを絡めた健康促進施策を試行している。
- 高齢者や災害弱者も活用可能なサービス提供が必要である。

プラットフォーム

- 八王子市は保有している15分野の公共データを二次利用可能なルールで公開しており、活用に向けた取り組み拡大の余地がある。

通信・ネットワーク

- 東京都立大学はローカル5Gを整備し、次世代AI・IoT・ロボティクス等の先端分野において社会実装が期待される研究を開始している。
- 街の価値向上に向け、高度な通信環境が求められる。

デバイス

- 人手によらず混雑情報等のデータ収集可能なAIカメラ等の整備が求められる。

将来動向

将来動向

- 先端的技術の導入の実証フィールド提供やローカル5G環境の整備や5G・ビッグデータの実証実験を想定している。
- 地理空間情報をHPで公開し市民や事業者の利便性を向上する。
- 東京データプラットフォームとの連携を想定している。
- 5Gアンテナ、スマートポールの導入やAI・IoT・3Dマップを活用した新たなサービスの開始などの先端技術活用や産学公連携の取組を推進している。

情報の課題

サービス価値向上に向けたサービス間連携及びデータ活用が不足している、サービスを提供するためのデバイス、通信・ネットワークが不足している

インターフェース

- 各サービスは個別に提供しており、サービス間で連携の余地がある。
- 安心・快適な多様で即時性のある情報の活用や高度化が不十分である。
- 高齢者をはじめ全ての人が活用可能な情報端末での発信が必要である。

プラットフォーム

- 産学公を巻き込んだデータ利活用が進んでいない。
- オープンデータの公開にとどまり、活用が進んでいない。
- 東京都が進めるTDPF（東京データプラットフォーム）等のデータプラットフォームに関する連携余地がある。

通信・ネットワーク

- 南大沢におけるネットワークインフラの整備は限定的であり拡大の余地がある。

IoTデバイス

- カメラ・センサー等のデータ収集のためのデバイスの整備が求められる。

5-4 その他の課題

現況・ニーズ

新しい働き方や生活

- コロナ禍、ICTの進展により、テレワーク等の新しい働き方が増加している。
- サテライトオフィスやシェアオフィス等は、駅周辺含め整備が不足している。
- コロナ禍で遠隔授業等が増加している。
- 遠隔授業等の多様なサービスの拡大・高度化が期待される。
- 防犯や異常検知等、まちの見守りに関心を持つ居住者の割合が高い。

低炭素

- 再生可能エネルギーの導入や電気自動車等の普及、災害時のエネルギー確保による低炭素化への要望がある。

防災

- 災害時の輸送やリアルタイム情報の高度化が進展している。
- リアルタイム災害情報提供に関心を持つ居住者の割合は高い。
- 3Dデジタルマップとビッグデータによる災害予測の高度化が進展している。

将来動向

将来動向

- 新たなビジネスを生み出す環境の整備や先端的な技術の導入に資する実証フィールドの提供を想定している。
- 効率的なエネルギー利用が図れる低炭素都市づくりや地域課題の解消のため、DXによる安心で活力あるまちづくりを推進している。
- 先端技術活用や産学公連携の取組を進めることで、多様な住まい方・働き方・憩い方が融合し進化するまちづくりを推進している。

その他の課題

コロナ禍における新たな生活様式の確立のほか、環境に配慮した低炭素な地域づくりや災害時の情報発信等が求められる

新しい生活様式

アフターコロナを見据えた施設やサービスの提供が求められる。

低炭素

低炭素で環境にやさしく安全安心な質の高い地域拠点の形成が求められる。

防災

災害時に誰もが必要な情報を即時入手できる状態の構築が望まれる。